

ヴァンセント・ウォード監督作品

ジェイソン・スコット・リー

アンヌ・バリロー

パトリック・バーギン

ジョン・キューザック

ジャンヌ・モロー

製作総指揮: ハーヴェイ&ボブ・ワインスタイン

グラハム・ブラッドストリート

製作: ティム・ビーヴァン

ヴァンセント・ウォード

脚本: ルイス・ノワ

ヴァンセント・ウォード

撮影: エドゥアルド・セラ

美術: ジョン・バート

編集: ジョンスコット

特殊効果: リチャード・コンウェイ

音楽: ガブリエル・ヤール

(サウンドトラックCD) 日本コロムビア

■第45回カンヌ国際映画祭特別招待作品

■第6回東京国際映画祭最優秀芸術貢献賞受賞

未来の才能に対する特別顕彰受賞

「もう、離さない」「もう、離れない」

MAP OF THE HUMAN HEART

心の地図

北極、カナダ、そして第2次大戦時のヨーロッパを
舞台に、国境・人種・距離・時間全ての障害を
越えて、初恋の少女への永遠の愛を貫ぬく
イヌイットの少年の、壮絶な愛の人生……



全米マスコミが感動、大絶賛!

●感動的でオリジナルなラブストーリー。
今年の映画の中で本当に凄い最初の映画!
(シスケル&エバート)

●素晴らしい! 驚くべき魅力の大作!
(LAタイムス紙)

●ヴィンセント・ウォードは類い希に見る創意に
富んだフィルム・メーカーである。
(ニューヨーク・タイムス紙)

●時間と距離を越えて描かれる壮大かつ
崇高な作品。
(ポスト・グローブ紙)



イヌイットの少年と混血の少女の息を
のむほど美しく、切なくなるほど激しい、
30数年に及ぶ愛の人生を描く、大河ロマン。

北極、モントリオールそして第2次世界大戦時のヨーロッパを舞台に、イギリス人の探検家から教えられた地図により文明社会を知ったイヌイットの少年が、白人とインディアン混血の少女と出会い、その後30数年に渡り捧げた愛の人生を、壮大なスケールで描く大河ロマンの傑作がこの「心の地図」である。

幼い頃、モントリオールの病院で出会ったイヌイットの少年アヴィックと混血の少女アルベルティン。白人社会の中で同じ傷みを分かちあえる二人は恋におちるが、やがて生き別れになってしまう。一度は北極圏に戻ったアヴィックだが、彼女を探すためにカナダ空軍に志願する。手掛かりは、彼女が口ずさんでいた歌。心の中の恋人を追って、北極圏、モントリオール、ロンドン、ドレスデンと彼の心の地図は拡がっていく。そして初恋の少女との数十年ぶりの再会。二人は激しくお互いを求め合うが、ドレスデンへの爆撃という最も残酷な局面に接し、白人社会の中で生きていくことを断念したアヴィックはアルベルティンと別れ、自分が本当に帰属する場所は白人社会に無いことを悟り、北極へと戻っていく。そして長い年月が流れた後、北極で一人寂しく暮らすアヴィックのもとに父を捜しにアルベルティンの面影を宿す女性が尋ねて来る。そして……。

この物語は、一人の女性を生涯愛し続けた男のロマンティズムを描いた作品にとどまらず、幼い頃から持ち続けているピュアな恋心と白人社会に溶け込みたいという願いの間を揺れ動く二人の愛の行方に、ボーダレス時代に生きる様々な民族の希望が込められており、国境、人種、距離、時間など全ての障害を越えていく「愛の力」の強さを描いていく作品である。

心の地図

MAP OF THE HUMAN HEART

監督・製作・脚本=ヴィンセント・ウォード/製作=「ワールド・アパート」のティム・ビーヴァン
製作総指揮=ハーウェイ&ボフ・ワインスタイン、グラハム・ブラッドストリート
撮影=「髪結いの亭主」のエドゥアルド・セラ
美術=「未来世紀ブラジル」のジョン・ベアード/脚本=ルイス・ノウラ
音楽=「ベティ・ブルー」「愛人/ラマン」のガブリエル・ヤーレ
特殊効果=「エイリアン」「メンフィス・ベル」のリチャード・コンウェイ/編集=ジョン・スコット
ジェイソン・スコット・リー/アンヌ・パリロー/パトリック・バーギン
ジョン・キューザック/ジャンヌ・モロー

第45回カンヌ国際映画祭特別招待作品
第6回東京国際映画祭最優秀芸術貢献賞受賞、
未来の才能に対する特別顕彰受賞

1993年/英・仏・豪・加4ヶ国合作/ドルビーステレオ DOLBY DIGITAL
上映時間:1時間50分/日本ヘラルド映画配給



アメリカ、ヨーロッパの映画界を支える
一流のスタッフ&キャストが結集

海外のプレスに近年最も素晴らしく感動的な映画と言わせたこの作品を監督したのは、ニュージーランド出身の映像派監督ヴィンセント・ウォード。前作のカンヌ国際映画祭出品作「ウイザード」が認められ、ハリウッドから「エイリアン3」の監督として指名されていたが、それを断り、念願の本作品に取り組んだ。今、その作品スタイルが最も注目されている監督である。主人公のアヴィックを演じるのは、「ドラゴン/ブルース・リー物語」で注目の若手俳優ジェイソン・スコット・リー。本作の演技により、ケビン・コスナーの最新製作作品への主演が決定している。アルベルティンには、「ニキータ」でその存在を強烈にアピールし、近年はハリウッド映画界へも進出をはたしたアンヌ・パリロー。悲しみを秘めたその美しさは、永遠の恋人として主人公が求める気持ち、観る者に強く印象づける。その他、「愛がこわれるとき」のパトリック・バーギン、フランスの女優ジャンヌ・モロー、「グリフターズ/詐欺師たち」のジョン・キューザックなど映画のスケールにふさわしい豪華なキャストとなっている。また、撮影は「髪結いの亭主」のエドゥアルド・セラが担当し、北極のさわだつ白い世界、しっとりした情景を見事にカメラに収めている。音楽には近年そのワールドミュージックの感覚がサウンドトラックの枠を越えた形で、日本でも高い人気をほこっている「ベティ・ブルー/愛と激情の日々」「愛人/ラマン」のガブリエル・ヤーレが美しい情景を豊かに彩っている。

次回 都内独占
ロードショー

日比谷・東宝映画街
シヤンテシネ1 (3591) 1511
■上映時間
日・祝 10:15 平日 12:30 2:45 5:00 7:15

特別鑑賞券 1400円/2700円(劇場窓口のみ)

好評発売中(当日一般1,800円(税別) 学生1,500円(税別)の処)

*劇場窓口及び都内プレイガイド、チケットぴあ、チケットセゾンにて発売中。
*業敵なオリジナルポスター付(劇場窓口のみ)
*ベア券にはメッセージカードもプレゼント。